

534 庭球大会

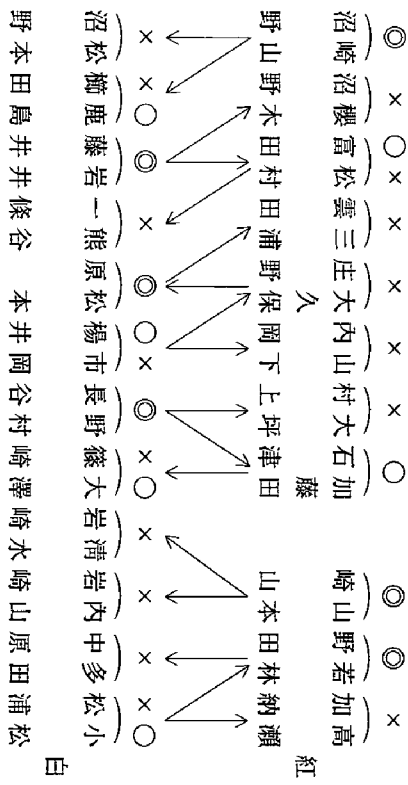
〔『法学新報』第29巻1(326)号 大正8年1月1日〕

○庭球大会 中央大学庭球部は昨秋の仕合「シーズン」に於て
対外仕合に八勝一敗の歴史を得て一躍都下専門学校庭球部中第
二流の上位に位するに至れり又特筆大書すへきは斯界の雄早稲
田を倒し一時に其名声を走せし一事是なり茲に於て吾人が熱望
せる庭球大会を開催するの運ひに至り去る十一月二十三日本学
「コート」に於て第一回庭球大会を挙行せり斯日天気快晴にし
て微風起らず絶好の「テニス」日和なり中央に天幕を張り四囲
は幕を廻らし本学選手の腕は鳴れり当日集まれる招待校は十四
校にして実に空前の盛況を呈す定刻十二時より試合を開始し十
勝四敗の成績を得て午後五時閉会したるか其結果は次の如く
(但○印は勝)



山本松瀬原水田林崎山山本田林崎山田松原田崎水山本原田納瀬学

而して校内庭球大会紅白仕合の結果は左の如し



我第一回庭球大会に斯くも多数の専門学校選手の参列を得盛会裡に我中央大学庭球部の存在を紹介し得たるは慶するに足るべく今後部員諸氏の益々奮励せられんことを祈る (一部員投)